

読売新聞 きょう（11月12日）のイチ押し

1面・社会面など 瀬戸内寂聴さん死去

作家で文化勲章受章者、天台宗僧侶の瀬戸内寂聴さんが9日、心不全のため京都市内の病院で亡くなりました。99歳でした。

- ★ 自身の不倫関係を基にした「夏の終り」、婦人解放運動家・伊藤野枝の伝奇小説「美は乱調にあり」など、女性の愛と性を見据え、生き方を問う作品を次々に発表し、流行作家となりました。
- ★ 1973年には岩手県平泉町の中尊寺で得度。京都・嵯峨野に自坊「寂庵」を結び、法話や写経の会を通じて悩む人の思いに耳を傾け、励ましました。出家後は仏教小説や古典で新境地を開き、6年かけて現代語に訳した「源氏物語」（全10巻）はミリオンセラーになりました。
- ★ 社会問題への関心も強く、死刑制度廃止や反戦、反原発の立場で活動しました。最晩年まで現役として活躍を続けましたが、10月中旬から体調を崩して入院していたそうです。

1面 イベント人数 上限撤廃へ 政府緩和案

新型コロナウイルス対策を巡る政府の行動制限緩和策で、大規模イベントの参加人数の上限が、主催者による感染防止安全計画の策定を条件に撤廃されることがわかりました。本紙の特ダネです。

- ★緊急事態宣言が再発令されても、ワクチン接種証明書か検査の陰性証明書を提示・確認する「ワクチン・検査パッケージ」を活用すれば、定員100%まで認められます。飲食店についても同様に、人数制限の撤廃など、制限が緩和されます。
- ★19日に専門家の意見を聞いた上で決定し、11月下旬以降の早い時期に適用します。

他紙と比べて

新型コロナウイルス感染症の治療薬の開発と使用承認が進み、選択肢が増えてきました。自宅での治療などに使える飲み薬も実用化が間近に迫っているようです。「なるほど科学&医療」のページ（29面）で現状を紹介しています。主な治療薬の詳しい一覧表も掲載しています。